

# 国語科「国語総合（古典）」授業実践紹介

授業者：太田 ゆかり

学年： 1年

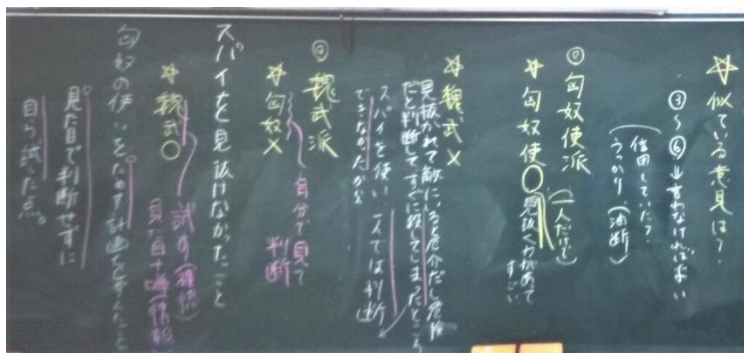
単元名：「魏武捉刀」（『世説新語』）「魏武と匈奴の使いのどちらが他者を見抜く力に優れているのか。」

## 単元のねらい（7つのチカラ：自分を理解する力・考える力）

- ①魏武（曹操）の行動の意図を説明することができる。
- ②魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について自分なりに説明を書くことができる。

## 単元の流れとパフォーマンス課題

- ①動画を見て三国時代の状況を理解します。  
次に、普段自分が人をどのように判断しているかを確認します。（1時間）
- ②重要な語句や句法を学びながら、図示もして状況を読み取ります。（3時間）
- ③魏武の2つの不可解な行動の理由を考えて、文章にまとめます。（1時間）
- ④魏武と匈奴の使いのどちらが相手を見抜く力に優れているかを、理由も明らかにして文章にします。（1時間）
- ⑤クラスメイトの意見の一覧を見て、みんなが魏武と匈奴の使いのどういう点を評価しているのか、共通項をまとめます。最後に、他者を判断するときに必要な手立てを理解していきます。（1時間）



→ 生徒の意見一覧プリント  
← 生徒がまとめた板書

生徒の意見一覧プリントのイメージです。生徒たちが授業で考えた意見や理由がまとめられています。板書のイメージも併せて示されています。

## パフォーマンス課題の評価

	2	1	0
Ⅲ 書く	魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について、自分なりに説明できる。	魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について、クラスメイトの言葉も借りながら説明できる。	魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について、何も説明できなかった。
Ⅳ 読む	魏武の2つの行動の意図を文章にまとめて説明できる。	魏武の2つの行動の意図をクラスメイトの言葉を借りながら説明できる。	魏武の2つの行動の意図を説明できない。
Ⅴ 知識・読解	重要語句や句法を訳し方も含め、正確に理解することができる。	重要語句や句法をおおよそ理解することができる。	重要語句や句法を十分に理解することができない。

## 単元を通して身につけてほしいこと

単元のねらい①により、(1)主語・客語を意識して正確に文章を読む力、(2)自分の考えを伝えるための分かり易い文章の書き方を身に付けていきます。さらに、ねらい②により、(3)複数の登場人物や、多数の他者の意見を比較して読む力を身に付けていきます。

本文では、観察眼は秀逸ですが軽率に発言して殺されてしまう匈奴の使いと、情報と自分の見た印象の違いから相手の力を確かめて相手を殺すことに成功した魏武が対比的に描かれます。昨今の自分の見たものだけで他者のよし悪しを判断しがちな風潮を見つめ直す機会にしてもらいたいと思っています。

## 実践の背景

漢文の授業では基礎事項の習得後、「借虎威」を扱ったのみです。生徒は、概略をつかむ読解力はありますが、主語や客語を意識した正確な内容読解には課題があります。また、「借虎威」では歴史的背景から寓話の意図を考えさせましたが、生徒から答えを引き出すのには時間がかかりました。さらに、漢文を学ぶ意義を見出せず授業への関心の低い生徒も見受けられます。以上の3点から、生徒が正確に読解することで疑問を持ち、本文に直接は書かれていない登場人物の行動の意図を積極的に読み取ることで、漢文を学ぶ楽しさを感じてほしいと考えて、授業を組み立てました。

## 授業改善のアプローチ

関心を持ってもらうため、導入では、動画を用いて歴史的背景を簡潔に示し、「自分は他者の良し悪しをどのように判断するか」という自分にひきつけた問いを考えさせました。単元の最後には、魏武と匈奴の使いの判断の仕方を比較したうえで、もう一度自分の判断の仕方を考えさせることで、授業の一貫性を保持しました。そして、正確な読解のためには、常に主語、客語を補い現代語訳をさせ、場面ごとに状況を図示させました。また、行動の意図を読み取る力をつけるために、簡単なペアワーク、机間指導、生徒の解答の印刷配布などを用いて、生徒全員が自分の考えを示す機会を確保しました。さらに、答えにたどり着いた生徒に説明をしてもらうことも取り入れ、考える道筋を意識した指導をしました。

### 生徒の変容

#### 考える力（+関心・意欲）

授業の前後では、魏武の行動に疑問を持った生徒達が話し合ったり、教員のもとまで答えを確認しにきたり、と本文について積極的に考えようとする生徒が多く見受けられました。授業内では、生徒が板書した問いの答えと自分の解答を比較し、自分に不足している要素や重要なところをメモする生徒が増えました。また、意見をまとめるうえでの話し合いを通じて、さらなる疑問を出す生徒もいました。全体を通じて、以前よりも多くの生徒が主体的に授業に参加できたと感じています。

#### 自分を理解する力

生徒が書いた単元終了時のまとめには、「はじめは、自分の目からの情報のみで、他者を判断しようとしていたが、魏武のように他の所からの情報を加えて考えることが大切だと思った」、「この『魏武捉刀』を読んで相手の行動の意図まで読み取ろうと思った」などがありました。自分と登場人物を比較しながら、他者の良し悪しを判断するときに必要な力を自分なりに記述できていました。日常生活に反映されているかどうかは、これからじっくり見ていきたいと思います。

### 評価

	A	B	C
Ⅲ 書く	魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について、自分なりに説明できる。	魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について、クラスメイトの言葉も借りながら説明できる。	魏武と匈奴の使いの行動を比較し、対人関係に必要な力について、何も説明できなかった。
Ⅳ 読む	魏武の2つの行動の意図を文章にまとめて説明できる。	魏武の2つの行動の意図をクラスメイトの言葉を借りながら説明できる。	魏武の2つの行動の意図を説明できない。

パフォーマンス点30%、テスト点70%で評価しています。